

# 実績報告書

## 1. 事業概要

事業実施者	代表団体名	株式会社タカヨシ		
	代表者名	代表取締役 高橋 佑		
	実施責任者	小杉 友昭	電話番号	025-381-2000
			Eメール	kosugi.tomoaki@takayoshi.co.jp
事業名	実証実験補助金事業（新潟市実証実験プロジェクト事業） 「コロナ禍における密をなくす QR コードを使用した整理券アプリ実証事業」			
事業内容	<p>コロナ禍のニューノーマルなイベント主催者向けの管理システム。 来場者のお手持ちの端末（スマートフォンや携帯電話）からブラウザ上で、受付や来場者の管理、整理券の配布・通知などができるシステムを開発し、今後のイベントでの導入に向けて、実際のイベントを通して下記の3点に関する実証実験を行った。</p> <p><b>「QR 整理券」アプリの開発（制作）と実証実験</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. イベント等での整理券発券時における密集と密接の回避</li><li>2. ペーパーレス整理券による非接触発券</li><li>3. 参加者連絡先の取得</li></ol>			
新規性・革新性	コロナ禍で必要となった、参加者の連絡先に関して、3密を回避しながらブラウザ上でスマートに取得し、有事の際に迅速に通知が出来るシステムであり、アフターコロナであっても混雑緩和と情報伝達に役立てられる。			
実証方法	令和3年1月16日朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催された「#キャラフェス新型（にいがた）」および同年2月4.5日NOCプラザで開催された「感染症対策展示会」で来場者に使用いただくことで実施した。			
達成目標	実証するイベントやセミナー等で、混雑の緩和による密の回避、非接触による整理券の発券、迅速な参加者連絡先取得ができるか、不具合が無いかを確認し、大きな問題点無く、今後も使用できると判断できることをふまえて、コロナ禍における早期のイベント・文化活動の実施ができること。			

## 2. 実証実施内容

<p>目標に対する成果</p>	<p><b>1. イベント等での整理券発券時における密集の回避</b>          イベント等において、整理券を配布する際に生じる混雑を緩和することで感染対策にとって重要な密集および密接を回避できる。</p> <p><b>2. ペーパーレス整理券による非接触発券</b>          スマートフォンおよびフューチャーフォンの端末上で整理券の表示と読み取りができるため、紙整理券の配布で生じる参加者とスタッフによる近距離での接触と、紙を通しての接触が無くなり、密接および物を介した接触の回避ができる。</p> <p><b>3. 参加者連絡先の取得</b>          万が一、来場者またはスタッフに感染者が出た場合の連絡先として、氏名と電話番号または、メールアドレスを取得できることに加え、どの時間に、どこにいたのかの情報を得ることができる。          より具体的な情報を管轄保健所に提供することが出来るため、濃厚接触者などの特定につながりやすく、SMSにより迅速な通知ができる。</p>
<p>実施スケジュール</p>	<p>令和2年12月上旬 システムの仕様決定          令和2年12月中旬 システムの開発開始          令和3年1月中旬 集客イベントにおける密解消に関する実証実験          令和3年1月下旬 実証実験を受けてシステムの修正          令和3年2月中旬 展示会ブース内での利用者の使用調査          令和3年3月中旬 成果報告書のとりまとめ</p>
<p>実証結果</p>	<p>当日の来場者106名を対象に実証実験を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付で自身のスマートフォンを提示することで受付スタッフとの密接は防ぐことができた。</li> <li>・全ての来場者からQRコードを掲示してもらうことで、リアルタイムで来場者を把握することができた。</li> <li>・スマートで迅速に参加者データを取得することができた。</li> <li>・広い会場だったため、通常であればスタッフが声による呼出しや館内放送が必要な場面となるが、SMS通知でそれが不要となった。</li> </ul>
<p>成果と課題</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリでなく、スマートフォンとフューチャーフォンの両方に対応可能なブラウザによる展開であることと、QRコードの読み取りということで利用者にとってのハードルを下げているため、大きな不具合はなかった。</li> <li>・整理券を配布せずに、看板のみで参加希望者を募ることができたため接触の回避と、人員の削減を実施できた。</li> <li>・リアルタイムで来場者数を把握することができた。(コロナ禍における定員がある場合には、退場者数をカウントするだけで、入場制限の目安とできる)</li> </ul>

	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証実験を行ったイベント自体がコロナ禍の開催だったため、もともと混雑する状況でなかった。</li> <li>・参加者が自身の端末からQRコードを読み取る機能が分からないため、スタッフによる説明が必要となった。</li> </ul> <p>(改善策：読み取り方の説明看板が必要)</p>
<p>今後の展開</p>	<p>事前申込不要で多くの方が来場するイベントや、年配者が参加するイベントなど、本システムが苦手とされるような催事にも段階的に導入し、課題と解決策を掘り起こし、展開できる範囲を広げていく必要があると思われる。</p>

